

地場産野菜が学校給食へ 食べとっけの、南条のうまい野菜



2月23日、南条地産地消の会総会で南条小学校給食委員会の児童が会の取り組みを発表しました。

同校が県の「児童が取り組む学校給食改善プラン事業」のモデル校に選ばれたことから、給食委員13人が昨年秋から学校給食に地場産野菜を供給（昨年はジャガイモ、タマネギなど16品目約3トン）している同会を調査、発表の準備を進めてきました。タイトルは「食べとっけの、南条のうまい野菜」。お面をかぶり自らを野菜に見たて、インタビューや児童が作詞した歌を交え、演劇風に発表。委員長の杉本真希さん（6年）、5年代表の河上明日香さんは「緊張しましたがうまくできました。いつもおいしい野菜を作ってくれてありがとう。」と感謝していました。

日本の食文化で交流 国際交流フェスティバル

3月9日（日）、国際交流フェスティバル（南越前町国際交流協会主催）がリトリートたくらで開かれ、町内在住のフィリピン、ブラジル、ペルー、中国人ら約40人と町民約50人が参加しました。そば打ちやもちつき、囲碁ボールなど、日本の伝統的食文化やスポーツに親しみ、参加者らは「とても楽しかった。次の機会にもまた参加したい」と親睦を深めていました。



繁栄を願い 素盞鳴神社神田祭



3月11日、上別所（出村）集落の神社の氏子ら26軒が集まり、五穀豊穡を願う神田祭が上別所集落センターで行

われました。神田祭は毎年3月11日と決め、もっそうと御神体掛け軸、おすすを当番に引き渡ししながら受け継いでいる行事。収穫した米に油揚げとニンジンを加え炊き込んだご飯を、高さ15cmほどの円柱の型（もっそう）に詰めて重箱に盛るのが特徴です。

当番の桂川亨さんは「神田祭は収穫のありがたさと豊作を願い、100年以上続いている伝統行事。世代が変わっても続けたい」と話していました。

僕たちの意見を町に 南条中1年生町づくり提案書

南条中学校1年生が、総合的な学習の中で長く住み続けたい町にするために提言書をまとめ、3月19日鈴木教育長に提案しました。1年生57人は昨年の4月から12班にわかれ意見を出し合い、「南条SAを有名にしよう」「野菜作りを活発にするためには」「図書予約、配達そして返却」などの案を説明しました。

鈴木教育長は「素晴らしいアイデアをありがとう。文化的で自然を大切にしたい働きやすいまちづくりのために活用します。」と感激。提案した生徒らは「住みやすいまちづくりのために、ぜひ意見を取り入れてください。」と話していました。



1年生代表 井上大志さん（左） 山本晃大さん（右）